

シルクスクリーン版画  
負の美「花盗人」

Prints by silkscreen  
NEGATIVE BEAUTY. "THE THIEF OF FLOWER"

高北幸矢  
Yukiya Takakita

デザインは、とりわけグラフィックデザインは、清く、明るく、美しく、楽しくなければならない。それは、社会の中で広く受け入れられるものとして多くの人たちにとって心地の良いものでなくてはならないからである。

民俗学では、ハレとケ、そしてケガレという捉えがある。ケは日常、ハレは祭り、祝いなど超日常、ケガレは非日常、病、怪我、死、苦しみの状況。

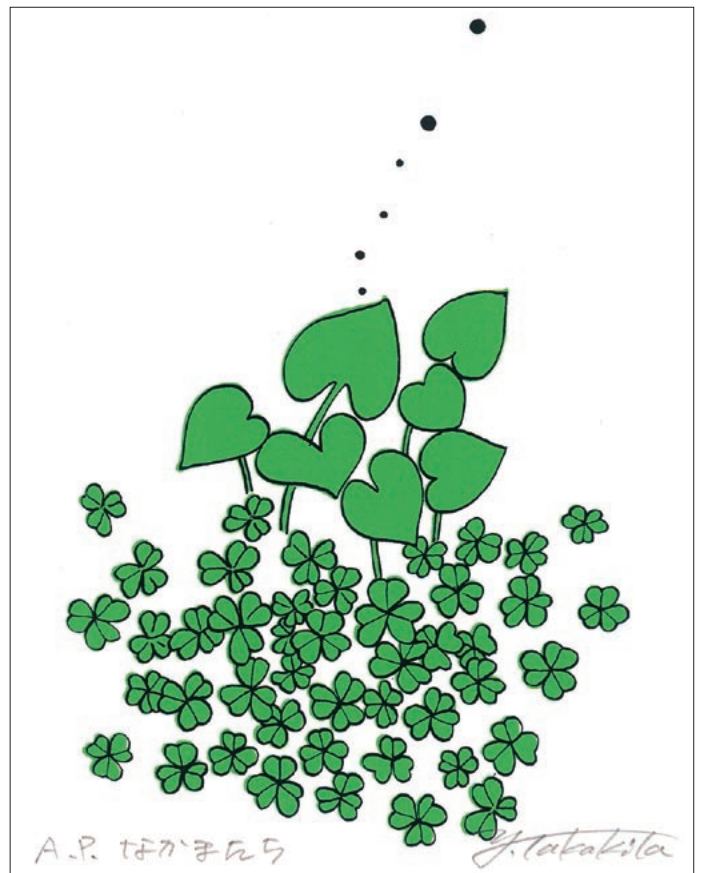
広告を含むグラフィックデザインは、ケである日常にインパクトを与え、ハレを演出することが基本である。しかし、私たちの暮らしはケガレを避けて生きることはできない。ケガレとも関っていく中で強く生きていかねばならない。

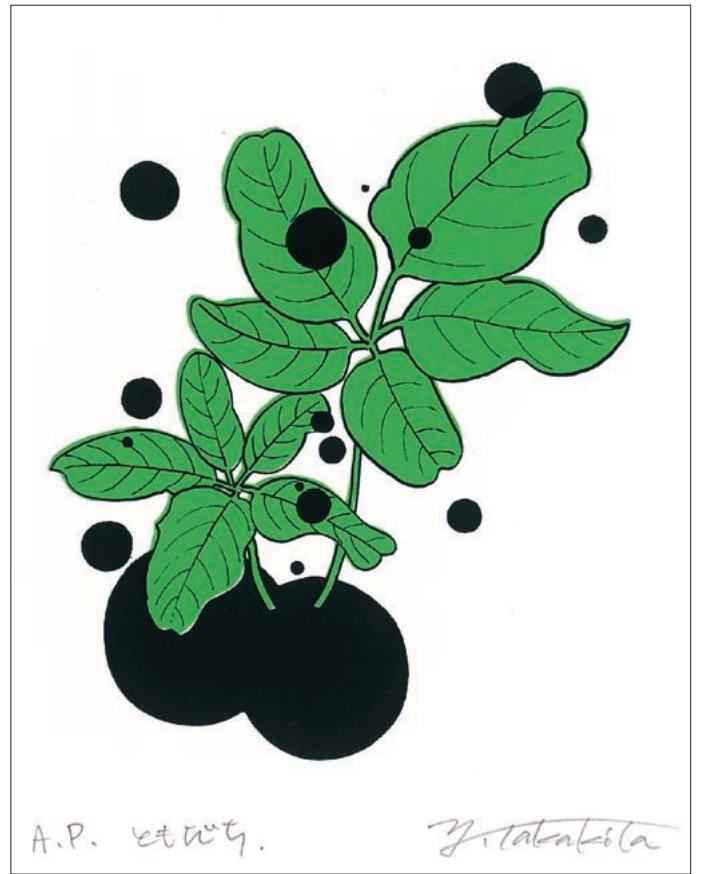
清く、明るく、美しく、楽しいデザインの心地よいデザインばかりでは、強いデザインが生まれにくい。私たちが生きる上で必要な強い力をデザインの中にも加えていかなければならない。それが負(ケガレ)である。

負の美「花盗人」は、デザインにケガレを取り込む実験である。そのためには一旦デザインから離れ、版画という領域で実してその可能性を探ってみた。

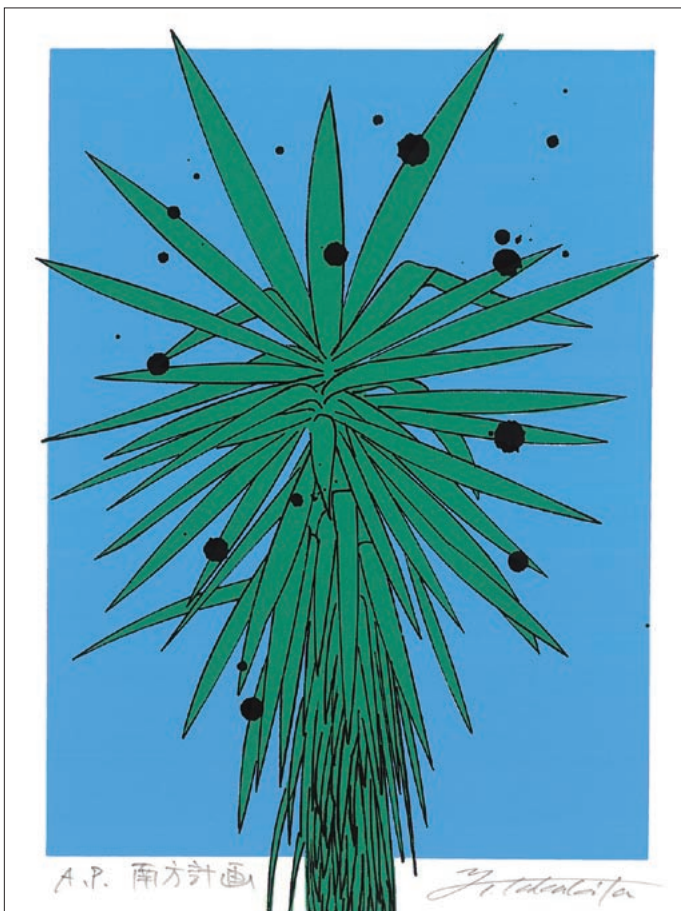
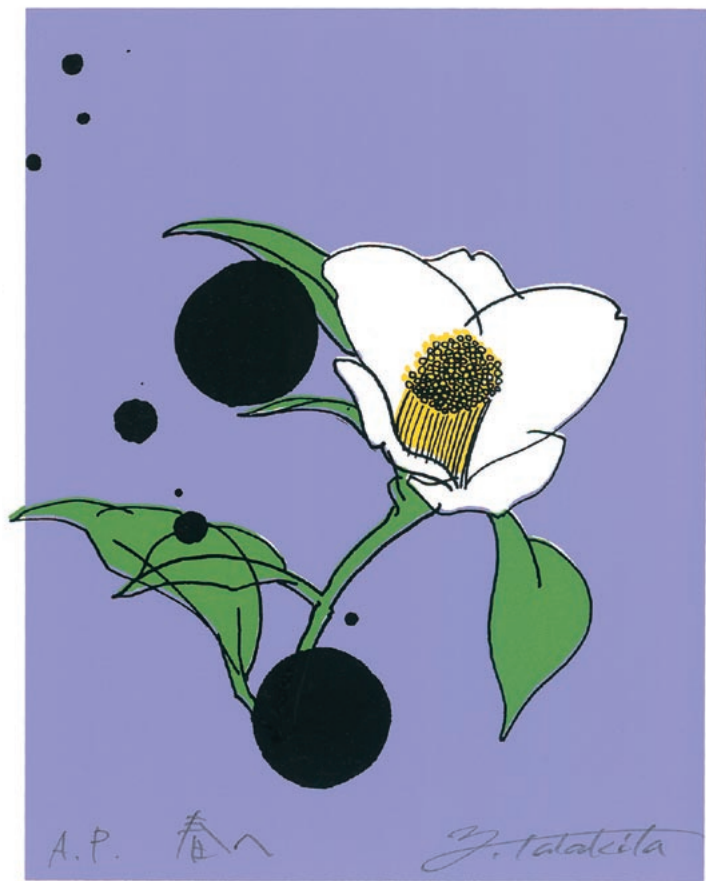
このシリーズは、美しい花の絵に真っ黒な墨を溢したかの様子を基本とした。その黒を「ボタ墨」と呼ぶ。ボタ墨は、負の象徴として作品にネガティブなものを持ち込む。多くの鑑賞者は、ボタ墨に対してネガティブな印象をもつことだろう。しかし、ボタ墨を含めて花の美しい力を一層感じていただけるとしたら幸いである。

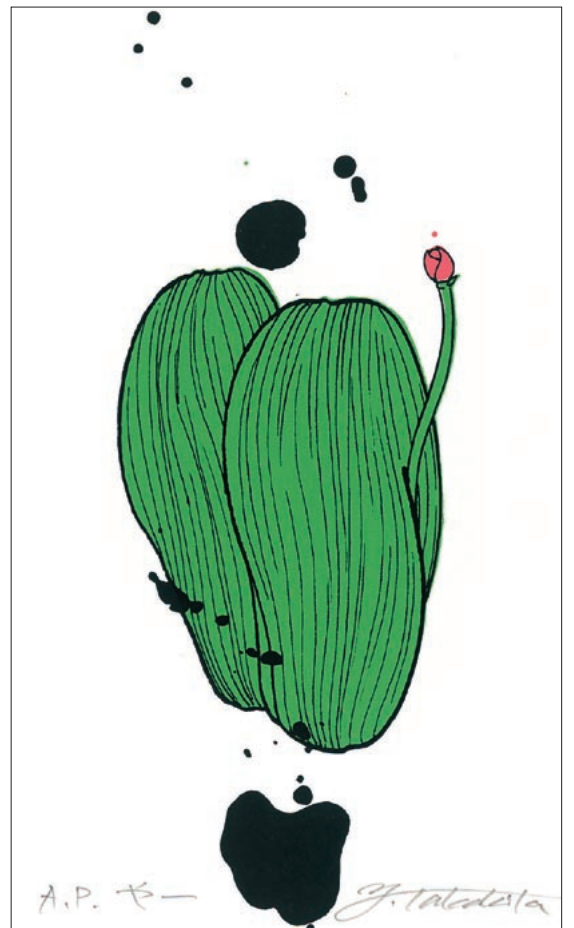
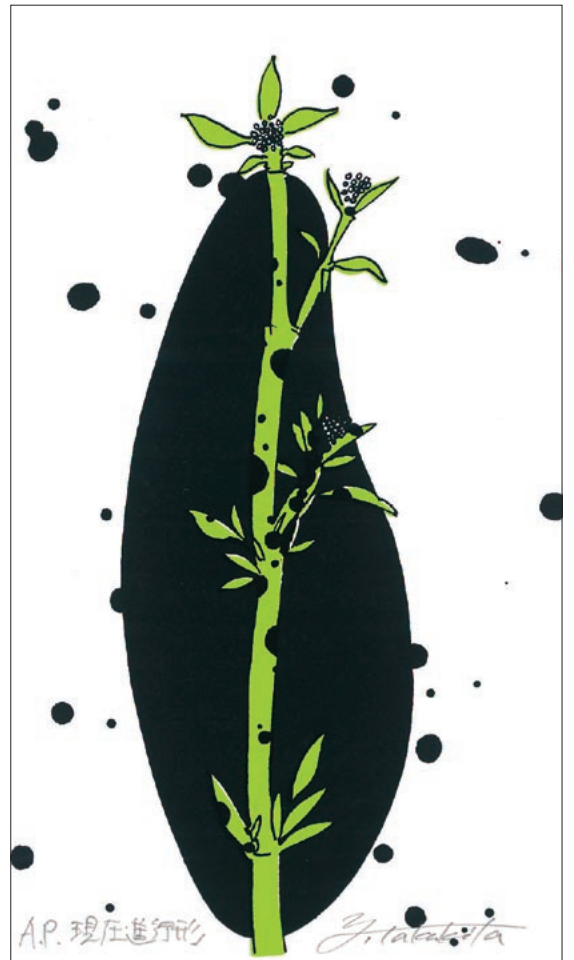
タイトル「花盗人」は、間抜けな花泥棒ではない。宴の夜、見事な桜を据えるために、全国の桜がいつどのように咲くか知り尽くして盗む盗人職人。桜の枝も盗まれたものであるが故、なおその美しさを見せつける。

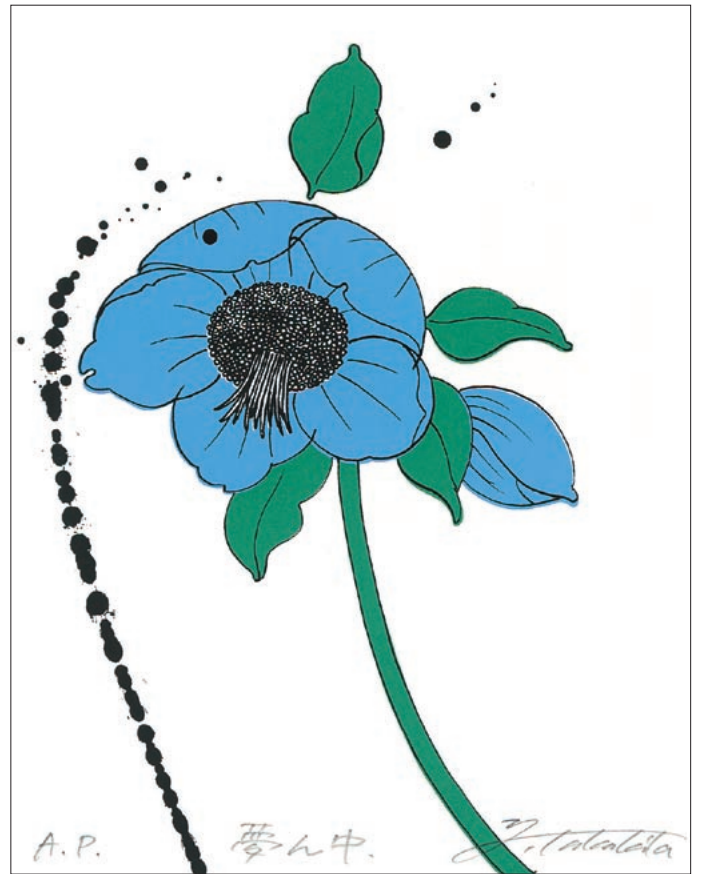


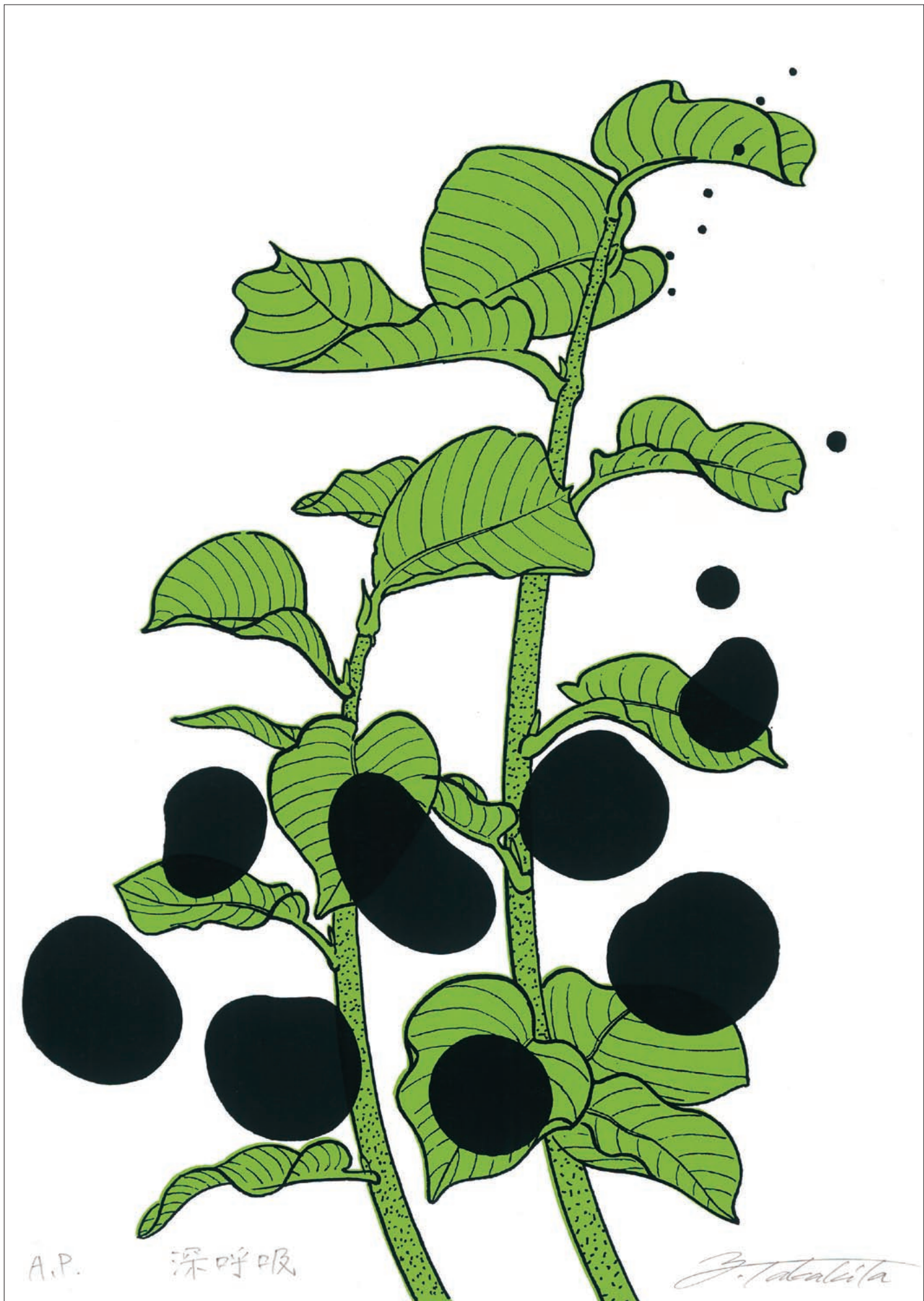












A.P.

深呼吸

Y. Tabalita